

東日本大震災から結成されたバレンタインチーム

バレンタインチームの始まりは協力隊から。。

代表の久一春です。私の実家は宮城県にあります。

阪神淡路大震災の4ヶ月前に神戸に来て、震災を味わいました。あの時はあまりの様子に誰も助けられない…と思ってました。3ヶ経ってライフラインが完全に整ってからも自分の事で精一杯で、何もすることはありませんでした。

しばらく経つと、瓦礫の中で埋もれていた方を助けられたんじゃないか。。何かできる事があったんじゃないかという思いでいっぱいになり、以後ずっとその思いを引きずってきました。

2011年3月11日の東日本大震災では、家族、友人、同僚、仲間が心配で寝ずの安否確認となりました。私と同じように安否を確認する人達とネット上で繋がり情報を共有した夜でした。

幼少から転勤族だった私には地方にも友達がいる、関西はじめ他の地方の友人数人が私を気遣い、何かできる事をしたいと言ってきてくれました。

そこで、友人達に宮城県の地区ごとに分かれてもらい、避難所ごとの安否確認データをとる作業を手伝ってもらいました。県警、宮城県庁、などにメールで情報を送ってました。

この時、協力隊と名付けて、情報を共有し現地の状況を把握することで、物資のマッチング作業なども合わせてしていましたが、震災から約1ヶ月半後、現地に入るようになった時に、メンバーも増え、バレンタインチームと名前をつけ現地に行く活動が始まりました。現在も、ほぼ、毎月南三陸中心に現地を訪れ、様々な活動を続けています。

<今迄の主だった活動報告>

時期	動き
2011年	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所にいた青年と Twitter で繋がったことにより、情報を知る事ができ、この方法で、避難所ごとの安否確認データを作成し、県警、県庁、役場に情報提供
	<ul style="list-style-type: none"> ● 物資などのマッチング作業 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所、自宅避難してる方への物資提供 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 家電製品の搬入…トラックにて2箇所おろし

時期	動き
2011年	<p>●石巻で自宅避難してる方の自宅の泥だし</p> 
	<p>●災害ボラセンでのボランティア活動</p> 
	<p>●仮設住宅にてコミュニティを目指したイベント開催</p> 
2012年 2013年	<p>● 手作り品の展開をすることでコミュニティと手仕事のきっかけづくり</p> 
	<p>●コミュニティを目的としたイベント</p> 
	<p>●他団体と協力し合っのイベント</p> 
	<p>●関西でのイベントで南三陸、気仙沼を中心に仮設住宅や商店街の状況を伝える</p> 

時期	動き
2012年 2013年	<p>●手仕事として結成した『南三陸はまゆりの会』応援</p>   
	<p>●現地の方と協力してまちづくりワークショップ開催</p>   
	<p>●関西でのイベントで東北品々の販売</p>   

活動に対する思い…

阪神淡路大震災の時どんな事が起こっていたか、どんな事をすればよかったのか、今の町になるまでの事や現在のこと、人々の様子など、当時活動されていた方や、まちづくりの専門家の皆さんから教えていただきました。東北と関西は地形も文化も違うけど、予測できる事で防げる事は、現地に伝えて一緒に考え行動したいです。

また、宮城県が地元である事で現地にも多くの仲間がいること、毎月現地に訪れてる事で沢山の人のやりとりができる事、地方にも友人がいる事、これらを有効に使い、情報を共有し、人と人を繋げることで、アイデアやアドバイスを現地により多く取り入れられる環境を作りたいと考えます。

さらに、バレンタインチームメンバー数人で、現在、原発問題と放射能について勉強会、県外避難者との交流会などに積極的に参加していますが、避難者の思い、現地に残ってる方々の思い、不安を抱えてる福島以外の方の思いをしっかりと聞き、共に考えとともに、放射能だけでなく安全な食を考えたり、産業も考える人達を増やしていこうとしています。

現在、関東の仲間も東北も少しですが仲間が増えてきました。

南三陸・気仙沼の様子と人々の一部の声とともに、県外避難者の一部の声を記載しておきます。

<南三陸・気仙沼の様子と人々の一部の声>

南三陸防災庁舎



南三陸志津川地区



気仙沼共徳丸解体前



気仙沼共徳丸解体後



- あと5年経ってから、公営住宅に移動できるとしても私の年では生きてるかどうか。。待つてられない（仮設住宅に住む78歳の男性）
- 学校でいじめが多い。（仮設住宅に住む30代女性）
- 学校でいじめられる。乱暴な子が増えた（仮設住宅に住む女子高校生）
- 震災で悲しい思いもしたけど、いろんな所から沢山の方が来てくれて、そのおかげで楽しく過ごす事ができて嬉しいし、感謝の思いでいっぱい（仮設住宅に住む70歳の女性）
- 嵩上げの為、一度隣の敷地に移動して、移動したところを嵩上げしたら、また移動するけど、みんなだまどまって決めたからちょっと大変だけど大丈夫（伊里前仮設店舗の女性）
- どんな風に町が作られるのかによって、人が来るかどうかが決まる。不安いっぱい（仮設店舗の女性）

<県外避難者の一部の声>

- 低線量被曝から免れる為、健康を守る為、自主避難してきたが、避難したくてもできない人もいるし、国が事実を伝えないから、避難する事を選ぶ事さえできない。自主避難者、残ってる方々が避難するかどうか選べる権利を与えて欲しい。
- ふつうの暮らしがしたい。●誰を信じていいかわからない。
- 現地では、子供がマスクしていたら他の子供にいじめられ、先生からはマスクを外すように親が指導されたりしてる。国が本当の事を言わないし、先生も勉強しようとしなない。悲しい。
- 仲良かったママ友とも認識が違うから、距離ができた。
- 友達が現地にいて過ごしているのを見ると大丈夫なのかも。。。と言う思いに駆られ、帰りたくなる